

作庭塾 庭守活動報告

荒川 昭男

共学意識が芽生えてきた講習風景



【庭園見学 (旧古河邸樹木説明を聞く)】

多くの新会員を迎えた庭守の講習会が、充実した内容で一年間を終了しました。

様々な景色の延段を四回に亘って行うとともに、躊躇、延段、樹木、鉢に関する講話の座学を協会の会議室で行いました。

更には、庭園部会長大胡さんの指導のもと、河合玉堂邸での二日間に亘る建仁寺垣の作成等、合計七回の講習も事故なく無事に終えました。

当初は面識がないためか遠慮がちで積極性に欠けた会員達も、お互いに少しずつ打ち解けてきて、明るい和やかさを感じられるようになり、そのような雰囲気の中で新たな講習会が始まりました。

平成二十二年四月二十五日、最初の講習会は庭園見学会となりました。

新横浜駅前よりバスに乗り、東京の旧古河邸庭園、小石川後楽園、浜離宮庭園などを巡りました。

旧古河邸庭園は、古河財閥の本邸として大正六年に完成しました。敷地内の日本庭園は、京都の庭師小川治兵衛の作庭。滝を数段の小滝とした造景は治兵衛が得意とする手法で治兵衛が作庭した京都の無隣庵を彷彿とさせます。

水戸徳川初代藩主頼房、二代光圀にわたって造成された小石川後楽園は、光圀の中国好みが随所に残されており、特に明の朱舜水設計と伝えられている石造りの円月橋は、その場を離れがたくなる程の優美を宿していました。

灰燼から生まれた寄せ灯籠

新しく始まった庭守の講習第二回は、五月三十日いつものように都筑J.Aの敷地を借りて行いました。

本年度は、躊躇講習の予定です。その始めとして向鉢を組みました。用いた水鉢は、最近このような石が少なくなると言われる「じゃくれ」を持つ良形の鳥海石。閃緑岩特有のめんにコブがある小振りの本鞍馬。御影という呼称の起こりと言われている神戸御影町の太振りです。肩付きの本御影の水鉢。御影町は山全体が御影(花崗岩)の六甲山の麓にあり、大阪城の石垣、京都鴨川の護岸を築くのに太閤秀吉が大量の石材を切り出させたこと伝えられています。

中でも石肌独特の「ガミ」を持つものを赤太閤、青太閤と呼び現在では入手できない幻の石。近年鴨川の護岸をコンクリートで改修した際には、不用となった太閤石を造園や石材業者が争って入手しようとしていたことを思い出します。

これ等の水鉢に筑波、鳥海、引臼、丹波鞍馬の役石で躊躇を組み、本鞍馬の飛石や富士川の延段を据え完成しました。



【余裕のある肩を持った本御影の手水鉢】

鳥海の躊躇には、大徳寺狐籠庵の寄せ灯籠の写しを据えました。狐籠庵の茶室「忘筌」前の本歌は、竿は宝塔の塔身、中台は多層塔の笠を天地逆に用い、火袋は宝篋印塔の基礎に火口を彫り、笠は五輪塔の水輪を輪切りにし、五輪塔の風空輪を宝珠に見立てた代表的な寄せ灯籠。

南北朝の争乱、天台宗徒と浄土真宗、天台宗徒と法華宗徒の争い、十一年に及ぶ応仁の乱、細川高国と細川澄元の宗家争い、一向一揆、更には大火や地震

などの災害で京都は度々焦土と化し、残された石造品は倒壊し、長い年月捨ておかれていた。後世茶人がそれに目をつけたのが寄せ灯籠の始まりと言われている。



【狐籠庵型寄せ灯籠と鳥海の手水鉢】



【完成後の総評や質疑応答は慣例】

同じ穴の庭師

六月二十七日に行われた躊躇講習二回目は、三班に別れ中鉢を組みました。

使用する材料や内容の説明を講習前にすることも慣例になりました。実技前の予備知識は大変有意義です。一班は渡部さんの指示も

と円形の深い穴を掘り、筑波ゴロ太の石積みから始まりました。手水鉢は渡部さんが用意した割肌仕上げの背の低い棗形を中腰で使う高さに据えました。あえて役石を置かず様々な要望に答えられる景色にしました。

手水鉢は、岡山の万成産石場近くから切り出されている龍王石に似ていますが確かではありません。



彰義隊は去り伽藍石のみが残された

二班は、川田さんの指導で、手水鉢は岡山の北木石で造られた四方仏の見立て物。背後の鏡石は、「うねり」と時代を感じさせる「サビ」に覆われた二石の甲州鞍馬。海は皿の如く浅く掘り木曾石を敷きつめる。

灯籠は、堂々とした火袋と優美な笠の六角活込み。石井

農園さんが用意してくれたアセビやヒサカキで背景を仕上げ、鏡石の力強さと植栽がバランス良い仕上がりとなりました。

この中鉢の景色も様々なニーズや環境に適應できると感じました。海の木曾石の畳敷きには、技能五輪に出場する新里、井上両君も参加し、今までに培った成果を遺憾なく発揮していました。



【ガーデニングにも合う立ち手水鉢の仕上り】



【柔和な仏と峻崖のような鏡石】

三班は、荒川が用意した本小松の伽藍石を手水鉢に見立てました。

今から三八五年前の寛永二年に創建された上野寛永寺の本堂の礎石です。江戸から明治と、大きく時代

が変わることになった一四二年前の戊辰戦争で、上野の寛永寺領内に立て籠もる彰義隊と官軍が激しく闘いました。

二六六名の彰義隊の戦死者は、見せしめのために、長い間野ざらしにされたと伝えられています。

その上野戦争で寛永寺の本堂の他、多くの堂塔が灰燼に帰したこのことです。寺院は焼失したが無数の伽藍石が残されました。その中の一石に水穴を穿ち見立てました。鏡石は木曾石を立石で二石組み、左右の役石は、刀掛けにも使える筑波の二段石と、滋賀県田上の舟石を組みました。灯籠は創作織部を据えました。キリシタン灯籠の別称に基づき、竿に細工を施しクルスをより具象化した貫抜仕上げになっています。

灯籠の作者は、滋賀県北小松の石工故増尾貞三氏で、長いお付き合いをさせて頂きました。が、五年程前に亡くなりました。

庭守の次回講習の予定は、九月に躊躇三回目として両使い、十一月の四回目は降り躊躇を予定しています。



【堂々とした伽藍石からは栄枯盛衰は感じられない】

刺激に満ち溢れた庭守

千鳥造園工事(株)
遠藤光哉

庭守を知り、参加を決意してから早くも一年以上が経ちましたが、今となってみると当時の「決意」は自分にとって重要な、そして大きな影響を与えるきっかけでした。

まず、毎回の講習は、濃密の一言に尽きます。単に技能の講習にとどまらず、目指すレベルが大変高いのです。延段や建仁寺垣、蹲踞をこの一年間で順番に取り組みましたが、指導していただく先生方も経験と自信に溢れた「本物」であれば、用いる材料も「本物」で、独特の緊張感が漂っていました。

単に先生の言うとおりに動くのではなく、皆で考え全員で取り組んでいきます。まだまだ経験の浅い私は、この深い講習会になかなか満足についていくことが出来ませんでした。個々の石と積極的に向き合ううちに徐々に石に対する抵抗感が薄れてきたのか、石が他人行儀でなくな

● 会員名簿の変更 ● (平成 21 年度名簿)

- 新入会員
 - 港北支部
 - 嶋村園
 - 代表者 嶋村俊之
 - 〒223-0062 横浜市港北区日吉本町6-18-11
 - Tel045-563-8927 Fax045-563-8927
 - 横浜南支部
 - 庭研 (横浜庭園研究室)
 - 代表者 川村利夫
 - 〒232-0032 横浜市南区万世町1-7和田ビル202
 - Tel045-325-8895 Fax045-241-0138
 - 横浜東支部
 - 旬神金造園
 - 代表者 高橋裕幸
 - 〒238-0022 横浜東区小島町5-25
 - Tel046-852-0066 Fax046-852-0166

- 社名・代表者変更
 - 港北支部
 - (会員名簿P.27)
 - 社名 藤好園 → 藤森グリーン
 - (会員名簿P.27)
 - 社名 小嶋園 → 小嶋建物業
 - 代表者 小嶋昭一 → 小嶋友子

- 緑西支部
 - (会員名簿P.31)
 - 代表者 河原満 → 河原秀明
- 神奈川支部
 - 中山造園 (会員名簿P.34)
 - 代表者 中山定雄 → 横山康雄
 - Tel045-481-3562 Fax045-491-5640

- 金沢・磯子支部
 - 日光緑化建設 (会員名簿P.44)
 - 代表者 池田勇 → 池田英明
- 磯子支部
 - (会員名簿P.44)
 - 代表者 天野一敏 → 瓜生誠二郎

- 川崎北支部
 - 村木園 (会員名簿P.51)
 - 代表者 村木信一 → 村木健一

- 湘南中央支部
 - (会員名簿P.63)
 - 社名 藤好園 → 藤森グリーン

- 賛助会員
 - 谷口産業 (会員名簿P.73)
 - 代表者 谷口強 → 谷口浩司

- 住所変更
 - 港北支部
 - 植宗Iカリア (会員名簿P.27)
 - 〒221-0863 横浜市神奈川区羽沢町821
 - 代表者 高澤正比古
 - Tel045-442-3795 Fax045-442-3796

- 川崎南支部
 - 藤グリーンネットワーク (会員名簿P.50)
 - 〒211-0053 川崎市中原区宮内2-20-22-101
 - Tel044-755-2319 Fax044-863-4089

- 賛助会員
 - 青木伸久税理士事務所 (会員名簿P.75)
 - 〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町3949番地
 - Tel045-864-7900 Fax045-864-0250

- 住所訂正
 - 横浜中央支部
 - 藤大匠緑化建設 (会員名簿P.46)
 - 〒231-0861 横浜市中区元町2丁目80番地

- FAX変更
 - 戸塚支部
 - 藤日産列イイワサービス (会員名簿P.41)
 - Fax045-814-2002 → 045-814-7331

つてきたような気がして、触るのが楽しくなってきました。ともすると、回が進むにつれて気も緩みがちになります。そこはやはり緊張が続いていました。「石を扱う時は歯を見せるな」と喝が入りますし、職人としての所作についても注意を受け、姿勢も学びました。

基本的な知識はもとより、その本質を理解することが求められ、背景となっている歴史や文化など学ぶことが多岐にわたりました。四方仏の手水鉢を組む際に画かれている四方仏の名前(葉師・釈迦・阿弥陀・弥勒)や方角、見分け方まで話が及んだ時には、深い森に迷い込んだような気分になりましたが、同時に不思議と気分も高揚して楽しさすら感じました。また諸先輩方を含む「仲間」の存在は、私に大変な刺激を与えてくれました。仲間の中でも分らない事やコツを教えてもらい勉強になりました。「皆のような動きが出来るようになっていたい」という目標も出来ました。

まだ寒さが厳しいかった三月下旬、会社の詰め所に貼ってあった神奈川県造園業協会報に庭守募集案内記事を見つけました。荒川さんの熱い文章を思わず読み切ってしまった事を今でも覚えております。締切日前日の事でした。私が勤めている会社は現代的な庭作りや手入れの仕事をしています。しかし、教科書で習う茶庭

参加者は、経験年数も年齢もバラバラですが、皆一様に「造園の技能をモノにしよう」という意識が強く、向上心のある人達に囲まれて毎回とても新鮮な刺激を受けてきました。ここで知り合った「仲間」は、やる気と元気をもらえずかけがえのない存在です。まだまだ教わった事を十分に吸収しているとは言えませんが、高いレベルを目指すゆえに厳しくも深い庭守の活動に、知識と経験が豊富な先生方の指導の下、素敵な仲間達とともに参加していくのが今後とも楽しみです。

初めての研修は、延段作りでした。石を扱うことも初めてで、使用したことのない道具に戸惑いながらも、見よう見まねで作

業しました。力任せの石の動かし方、常に石を汚さない様に意識する、動線に物を置かないなど日々の作業で常にその先を意識して動く事を学びました。また、少人数の機会も多く石を様々な角度から見られ、石の面白さと同時に難しさを痛感させられました。石は据え方によって様々な表情を見せ、重量感。存在感或いは歴史までも感じさせてくれました。庭守に参加して、これまで何気なく見ていた石

の表情を意識して見るようになりました。先人達が残してくれた様々な庭がとも興味深い物となりました。今後の自分の仕事の中にこの経験を生かし、より良い庭作りに反映していきたいと思えます。まだ駆け出しですが自分の体で一つ一つ覚えていきたいです。

(株)湘南グリーン サービス田口繭子

事務局情報 (月間行事一覧) ● 諸会議その他 ●

9/3 (金)	公園緑地部会 公園緑地部会技術研修委員会
9/7 (火)	情報委員会 第48回技能五輪全国大会出場選手支援会議
9/8 (水)	公益法人制度検討委員会正副委員長会議
9/14 (火)	総務・厚生委員会大会下見 (仙石工場)
9/26 (日)	庭守講習会 (横浜農協きた地区営農センター)
9/29 (水)	刈払機取扱安全講習会 (日産工場内横浜市緑区医療科学センター)
10/3 (日)	第31回よこはま技能まつり (横浜公園)
10/7 (木)	刈払機取扱安全講習会 (平塚馬入ふれあい公園)
10/15 (金)	関東甲信造園建設業協会協議会 (横浜三溪園他)
10/16 (土)	造園技能士コース開校式
10/23 (土)	造園技能士コース (第2回)
10/23~24 (土・日)	第48回技能五輪全国大会 (神奈川県)
10/26 (火)	第10回親睦大会 (仙石工場)
10/30 (土)	造園技能士コース (第3回)



チャペル / ルーム
ヴァンセーヌ / 上海酒家



客室数50室/大小宴会場10
中国料理 上海酒家
レストラン ヴァンセーヌ
ティーラウンジ

ホテル横浜ガーデン

〒231-0023 横浜市中区山下町254番地
TEL 045-641-1311

湘南ホテルマネジメント株式会社
グランドホテル湘南